

# 第三十二・三十五師団移動状況



## 竹一船団

昭和19年4月21日 0600上海泗礁山錨地をマニラ経由ハルマヘラに向け出発。乗船部隊は中支山東省に展開していた第三十二師団歩兵二百十一連隊（東京）、二百十二連隊（佐倉）〔楓部隊〕、第三十五師団第二百二十連隊（甲府）、第二百二十一連隊（佐倉）、〔東師団〕を比島、ニューギニア（ハルマヘラ・モロタイ・ワシレ・マノクワリ・ソロン・ビアク）に派遣するために上海に集結。ミンダナオ向け第三十二師団、マノクワリ向け第三十五師団、マニラ向けの合計15隻、護衛13隻合計28隻の重要船団である。

昭和19年4月28日14隻がマニラに入港、補給をすませたが、二つの師団とも共にハルマヘラに向かうことになり、戦没した第一吉田丸に変わって帝海丸が加わり、8隻が5月1日ワシレに向け出港した。

途中3隻が雷撃により沈没。残り5隻は7日セレベス北端バンカ泊地に退避、8日0700出港し、9日ワシレに入港。その後第三十二師団歩兵第二百十一連隊は機帆船に分乗しモロタイ島に派遣。第三十五師団は巡洋艦で西部ニューギニア（ソロン・マノクワリ）に移動。5月20日ソロン到着後大発でヌンホル島經由ビアクに到着。

## 竹一船団<戦史叢書豪北方面陸軍作戦>

当初目的

19年 5月 7日 第三十二師団（楓4251）をハルマヘラ

19年 5月10日 第三十五師団（東2935）をマノクワリ

19年 5月 8日 海上機動第二旅団ダバオ

19年 5月15日 第九派遣軍ヤップ

19年 4月12日 海上機動第二旅団大連発

19年 4月21日 第三十二師団 和浦丸、御月丸、伯刺西爾丸、天津山丸、**第一吉田丸**に分散乗船

第三十五師団 但馬丸、亜丁丸、陽山丸に分散乗船

満州丸、福洋丸、帝海丸、河南丸、雲海丸、帝香丸、Wales Maru

護衛 第七玉丸、白鷹、朝風、白露、藤波、倉橋、第20号海防艦、第22号海防艦、第22号掃海艇、  
第37号駆潜艇、第38号駆潜艇、宇治、安宅

上海泗礁山を出港

19年 4月24日 第三十五師団第二百十九連隊（東京）は華北から青島・釜山・門司を經由してパラオ入港

19年 4月26日 第一吉田丸遭難

19年 4月26日 第一吉田丸を除く14隻マニラ入港

19年 5月 1日 0400 ワシレ向けマニラ出港

船団指揮官 第六護衛船団司令官 梶岡少将

第三十二師団 和浦丸、御月丸、伯刺西爾丸、**天津山丸**、帝海丸

護衛：不詳

19年 5月 1日 0400 ソロン向けマニラ出港

第三十五師団 **亜丁丸**、**但馬丸**、陽山丸

護衛：不詳

19年 5月 6日1400 02-40N, 124-05Eにおいて雷撃をうける。

第三十五師団第二次輸送部隊、第三十二師団 海難

19年 5月 7日 海上機動第二旅団 青葉山丸 遭難 被害を受けるもザンボアンガに到着 9名戦死

船団は7日1000バンカ泊地に到着。8日0700バンカ泊地出港、9日1824ワシレ到着、13日0452ワシレ出港、

14日レンヘーン泊地警泊、20日2122マニラに和浦丸、御月丸、伯刺西爾丸、帝海丸、陽山丸の5隻入港

19年 5月 9日 船団はハルマヘラに到着

第一吉田丸：第三十二師団、歩兵二百十連隊2,906(2,155)名、野砲第三十二連隊301(241)名、第二百三十三連隊120(104)名、輜重第三十二連隊70(46)名、第三十二師団第一野戦病院一部30名(26)、通信隊一部16(16)名合計3,446名(2,586)乗船（）内は戦死者数

<部隊輸送間に於ける遭難船舶一覧>

昭和19年4月5日門司出港 10日吳淞着 18日吳淞出港

昭和19年4月21日 0600舟山群島泗礁山錨地をマニラ経由ハルマヘラに向け出港。

昭和19年4月26日 0345頃、北緯18度06分、東経119度40分（ルソン島ラボック湾北西200Km付近）において米潜水艦 *Jack* (SS-259)の雷撃により沈没。

遭難による戦死は乗船部隊2586名、備砲隊2名、船員61名 計2,649名である。

なお、本船遭難後米軍の記録によれば、damages army cargo ship *Wales Maru*, 18° 14 'N, 119° 53' Eとなっているが、*Wales Maru*という名前の船舶は見つからないが、戦時輸送船団史では1隻、名前が不明の船舶が参加していることからこの船の可能性はある。

<戦時船舶史>



第一吉田丸 山下汽船 5,425総トン

亜丁丸：歩兵二百二十連隊第二大隊845(213)名、歩兵第二百二十一連隊第一大隊888(174)名、独立山砲第四連隊主力439(51)名、第三十五師団通信隊49(5)名、第三十五師団工兵隊47(19)名、第三十五師団輜重隊71(12)名、第三十五師団野戦病院68(33)名、合計2407(507)名、乗船（）内は戦死者数 備砲隊4名、船員12名戦死

<戦史叢書>

昭和19年4月9日宇品出港 4月10日門司出港 4月16日釜山出港

ニューギニア派遣の第三十五師団兵員約3000名と多数の上陸用舟艇を搭載した満船状態の本船は泗礁山錨地で船団を組み昭和19年4月21日出港、マニラに5月1日到着すると状況がかわり船団の行き先がハルマヘラ島ワシレに改められた。

5月1日マニラ出港。南下するうち日毎敵潜情報が頻繁に入り由々しき事態を迎えたため、警戒を強化して航行するうち、本船は6日1402頃北緯02度30分、東経124度10分（セバス島<sup>ノド</sup>北西130Km付近）において米潜水艦 *Gurnard*(SS-254)の雷撃をうけ、右舷船首と三番艙に被雷し忽ち船首を海中に突っ込んだ。間もなく船尾が約40度持ち上がったと同時に大爆発がおり、見る間に沈没した。輸送指揮官：春山勇一大佐  
戦死者は乗船部隊499名、備砲隊4名、船員12名 合計515名。上記では523名

<戦時輸送船団史より>

**写真は未収録**

**亜丁丸 大洋興業 5, 823総トン**

但馬丸：第三十五師団司令部の一部（経理、兵器勤務班など）、歩兵二百二十連隊（第二大隊欠）、独立山砲兵第四連隊第一大隊、師団輜重隊主力など2,714名、火砲12門、自動車35両 約2時間後沈没 人員約9割を収容

<戦史叢書>

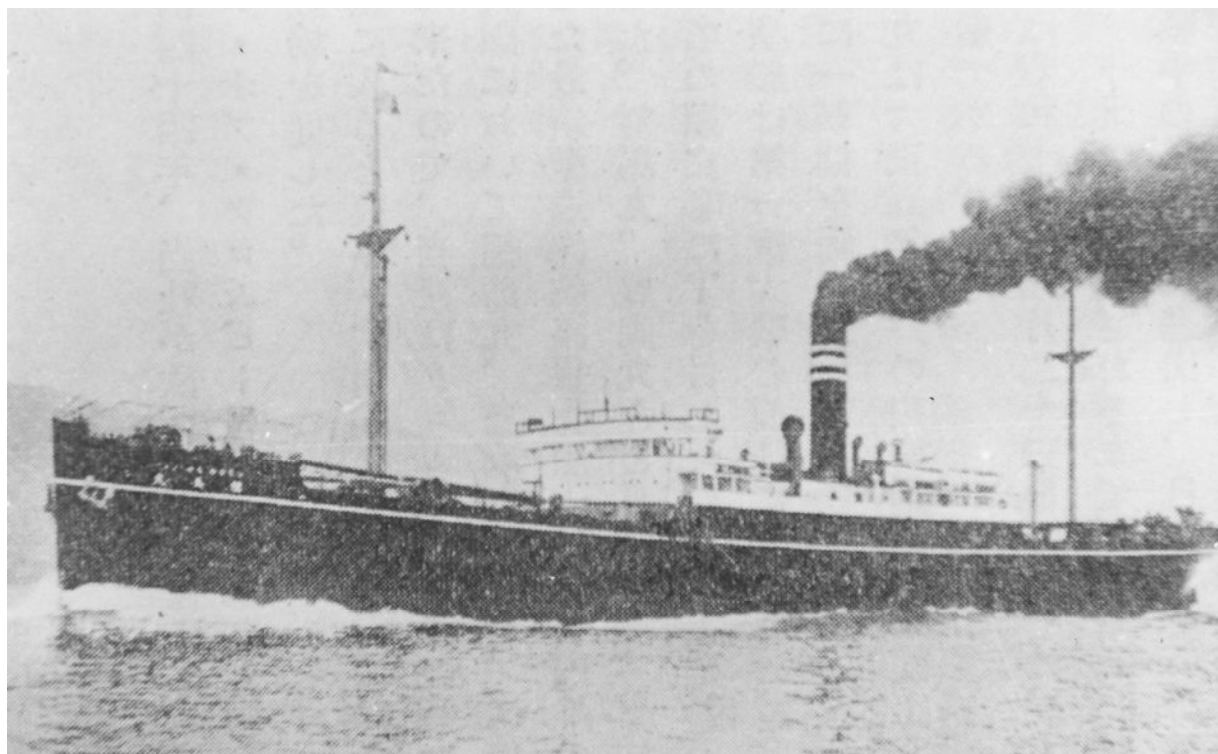
昭和19年4月2日宇品出港 4月8日マニラ着

昭和19年5月1日マニラ発、ハルマヘラ島ワシレに向け航行中、6日1403頃北緯02度30分、東経124度10分（セバス島メド北西130Km付近）において米潜水艦 *Gurnard*(SS-254)の雷撃をうけ、右舷一番艙、船首、船尾に計3発被雷、急速な浸水で4分後船尾を立てて沈没した。

乗船は歩兵第二百二十連隊2,701名、自動車35両、兵器・弾薬・糧秣等5,397m<sup>3</sup>を喪失。

乗船部隊兵58名、備砲隊9名、船員3名戦死 輸送指揮官：横光大佐

<戦時輸送船団史>



但馬丸 日本郵船 6,995総トン

天津山丸：第三十二師団司令部の一部、歩兵第二百十一連隊の1個中隊、歩兵第二百十二連隊本部、歩兵第二百十二連隊第一大隊の一部、野砲兵第三十二連隊、工兵一中隊、輜重一中隊、第三十二師衛生隊主力、師団野戦病院砲14門、馬130匹、自動車17両。3,420名ほぼ全員救助。

<戦史叢書>

亜丁丸と同船団。5月6日1357頃北緯02度30分、東経124度10分（セバス島ヲド北西130Km付近）において米潜水艦 *Gurnard*(SS-254)の雷撃をうけ、おいて右舷一番艙後部に被雷、破孔よりの浸水が瞬く間に二番艙にも流入し船体が右舷に傾斜した。必死の防水も効なくやがて三番艙にも浸水を招き船首が沈下、かくて7日北緯02度42分、東経124度07分において船尾を立て全没した。

当時歩兵第二百十二連隊主力ほか各部隊合計3,500名が乗船しており95名が戦死。

<戦時輸送船団史より>



天津山丸 三井船舶 6,886総トン